



【第9号】発行日：令和7年10月1日

那古野一丁目地区・ 景観まちニュース

那古野一丁目地区景観まちづくり推進委員会（以下、「推進委員会」という。）では、景観協定区域内の那古野一丁目で土地・建物の開発を考えている所有者や事業者の方などから、景観協定区域の確認や景観ルールについて質問や相談が寄せられることがあります。令和3年6月の景観協定締結以降、今年の8月末現在で、累計で28件の問い合わせに対応してきました。

さらに、景観協定区域内で土地・建物で新築・改修などの計画がある場合に、景観協定の事前協議を実施することとなっています。事前協議の対象は、建築物や工作物（駐車場等）の新設・外観の変更等、広告物の掲出など、景観形成に大きく関わるものです。施主を始め建築関係者の方々に計画の変更が可能な時期に事務局にご連絡いただき、地元の町内会長さんらを中心とするメンバーで内容を確認し、周囲の景観と調和するよう配慮していくことをお願ひしています。これまでに延べ11件の



落ち着いた雰囲気の木造建物

事前協議に対応してきました。その後、木造の建物、鉄筋コンクリート造でも落ち着いた色彩の建物、看板類を落ち着いた色彩にした時間貸し駐車場などが整備されています。名古屋駅近くにあります。ながら、レトロな雰囲気を醸し出すエリアとして徐々に知られ、今後も開発の計画がある場合に問い合わせや事前協議をする案件が増えしていくことが予想されます。引き続き問い合わせや事前協議に対応しながら、景観や住環境を守り育てる活動を継続していきますので、みなさまご協力を願います！



時間貸駐車場にある看板



落ち着いた色彩の建物



夏の風物詩 地蔵盆で行灯を復活 させて路地を演出 8月23、24日

四間道から一本入ったところには地域特有の閑所（かんしょ）と呼ばれる路地空間があり、その行き止まりにはお堂と祠があり、子守地蔵尊が祀られています。毎年8月に行われている地蔵盆では、一年に一回お堂が開帳され中の子守地蔵尊を見ることができ、地域の方々を中心にお参りに訪れます。推進委員会では、この地蔵盆の演出に協力することにより多くの人々に訪れてもらい、景観協定地区であることを周知するのよい機会になるだろうと考え何度も話し合いをしました。かつて地蔵盆で演出に使った行灯が幾つか見つかることもあって、行灯を復活させようと制作に取り組むこととしました。

行灯の骨組みと灯りは、元々あつた行灯の骨組みを参考にして、リフオーム業を生業としているメンバーが既製品のLEDのライトを組み合わせて試案を製作し、その試案を見ながら大きさや形を決めていきました。絵柄は地域の子ども達や絵の先生、推進委員会のメンバーにもお願いして描いてもらいました。「子守地蔵尊」「景観協定地区」「献灯」などの文字は推進委員会のメンバーが書きました。また、かつて地蔵盆で使われていた行灯には「献灯」の文字の下に地区外在住と思われる方の個人名が書かれていたこともヒントになり、推進委員会の活動費として協賛金を募ることとし、協賛金をいただいた人の名前を入れることとしました。



推進委員会のメンバーが集めた絵柄や文字を書いた紙を持ち込み、木の骨組みにこれらを貼り合わせて行灯が完成！

地蔵盆の当日 8月 23 日



御開帳された子守地蔵尊

を迎え、朝から地元の方々により路地に行灯が並べられました。夕方にさしかかっても暑さが残る日でしたが、あたりが薄暗くなるころから風が吹くようになり、行灯の灯りが徐々に映えるようになつてきました。この頃から、行灯の絵柄を描いてくれた子ども達が家族連れで訪れ、自分が描いた絵柄を探す様子が見



2日目には、子守地蔵尊に向かう路地にも行灯を並べた

られるようになりました。また、

となりました。

路地の入口に飾られた子守地蔵尊と書かれた提灯と路地に並べられた行灯が四間道を訪れた人達の目に留まり、たまたまこの地を訪れた人達を子守地蔵尊にいざなうことができました。2日目の8月24日も同様にあたりが薄暗くなるころには風が吹き、行灯の灯りが映るようになり、たまたま訪れた人達がスマホで写真を撮る光景を何度も見ることができました。推進委員会で話し合ってきた

今年の11月には、この地区で秋の恒例行事となつた四間道秋祭りが予定されており、秋祭りに合わせて再び行灯で路地を演出しようとという声が上がっています。この秋祭りは、円頓寺秋のパリ祭と合わせて行われる予定で、地蔵盆の秋祭りは、円頓寺秋のパリ祭と合わせて行われる予定で、地蔵盆よりもさらに多くの方々が那古野界隈を訪れることが予想され、観協定地区のよいPRの機会になることも期待しながら街の演出に取り組んでいきます。ご期待下さい。

近況報告

早いもので、推進委員会の運営もこの令和7年度で5年目となりました。今年度に入つてからの主な話題は、今回の中づくりニュースで紹介したように、景観協定のことをより多くの人に知つてもらう機会として、8月の地蔵盆に向けた行灯づくり、11月の四間道秋祭りへの参加があげられます。

行灯づくりのヒントとしては、まずは他都市の事例に学ぼうといふことで、大阪府岸和田市の本町のまちづくりを考える会が取り組む「夢灯路」や、緑区桶狭間で毎年5月に開催される「万灯会(まんとうえ)（桶狭間古戦場まつり）」などを参考にしていました。これらの事例を見ながら意見交換を重ねていくうちに、地蔵盆で過去に使つていた行灯が見つかったので、行灯づくりを進める目処がつき、和氣あいあいとしながら楽しく活動を続けています。地蔵盆当日には、働き盛りの若い人達も朝から参加して準備をする光景が見られました。

景観協定に関する問い合わせも今年度に入つて5か月で6件と、ほぼ月一件程度対応しています。その多くは建築関係や不動産事業者からの問合せです。また、那古野界隈を歩いていると、夏休み期間ということもありますが、平日の昼間から浴衣を着た若い人達の光景を度々見かけるようになります。建築・不動産事業者にとつても、来訪者にとつても「四間道」「那古野」「円頓寺」などの認知度が高まつてきていることを実感しています。



KNOT
BOULDERING HOUSE

四季の城 古近

& AND PLUS 'SHARE' OFFICE + COFFEE

FUDOSAN KOB
VALUE MAKER

THE URBAN INSTITUTE
SPACIA
株式会社 都市研究所スペーシア

スナック 四間道

景観まちづくり推進委員会の活動を応援してくださる店舗・企業さんを募集中です！！